

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470500513	
法人名	社会福祉法人 気仙沼市社会福祉協議会	
事業所名	グループホーム 桑の実	
所在地	宮城県気仙沼市唐桑町只越346-19	
自己評価作成日	令和 1年 9月12日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階	
訪問調査日	令和 1年10月11日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム桑の実は気仙沼市社会福祉協議会が、気仙沼市から指定管理者として指定を受け運営しています。当施設は気仙沼市唐桑町中心部に施設を構え、近隣には気仙沼市保健福祉センター 燦さん館・特別養護老人ホーム・障害者療養施設があり、当グループホームも含め福祉の里を形成しております。風光明媚な立地条件に恵まれ季節ごとの風景を楽しんだり、ボランティアグループの協力により敷地内に畑や花壇を作り、入居者様が一緒に作業を行うことで生き生きと過ごせるホームとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、福祉施設の建ち並ぶ「福祉の里」の中にあり、平屋建ての1ユニットである。福祉の里での行事やレクリエーションに、各施設が参加し職員同士助け合っている。市の職員や地域包括職員と密に連携し協力関係を築いている。入居者の自主的な気持ちを大切に意向に添った支援に努めており、入居者は自ら役割をもって思い通りに振舞い、張り合いのある生活を楽しんでいる。前回の目標達成計画(理念の見直し、入居者・家族との関係性の確保、地域住民等との繋がり)が達成されているのを確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 桑の実)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を「入居者様の思いに寄り添い、笑顔溢れる施設にいたします。」と職員で話し合い定め、事務所に掲示し職員全員で共有し、質の良いサービスの提供に取り組んでおります。	振り返り時に、生活歴をもとに、働いていた頃のことを入居者から聞き出している。身体機能が落ちて来て立ち上がりが不自由でも、自分の力でやろうとする気持ちを大事にし、ゆっくり見守り支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「継続的な地域との関わり」を意識しています。地域の行事等に参加することで得たボランティアグループ等との繋がりを大切に、その後も継続して交流できるように努めております。	「コスモス会」のボランティアが畑の作業等のほか、ホームの行事に参加している。ホームの地域交流会で秋刀魚焼きや芋煮会をやり、家族やボランティアと楽しんだ。知人が仲間を連れて訪問する人がいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護に携わることで得た専門知識を、地域の方々に還元できる機会があれば参加しようと思うが、職員配置上の問題も有りなかなかできていない。相談があった時には、惜しみなく協力できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度実績では年6回推進会議を行い、事業内容・運営状況等の報告や、避難・消化訓練を入居者・推進委員・職員合同で行い、万一に備え安心できる施設づくりに努めております。	メンバーは、保健福祉課長、地区民児協会長、地域包括職員等である。メンバーは避難訓練で入居者代理として参加する。スロープ利用の留意事項や懐中電灯の置く位置に関する意見があり、対応した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課である市高齢介護課や地域包括支援センター、社会福祉課等に協力や助言をいただいております。また、推進委員に保健福祉センター燦さん館の職員をお願いしています。今後もより良い協力関係を築けるよう努めてまいります。	地域包括職員と連携し、入居者の親族を探し出し、生活保護及び成年後見の手続きをし、入居に結び付けた。屋根のペンキ塗装や事務所のエアコン補修等、市職員と相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。内部研修(ケア会議・スタッフ会議)等で研修会を行っている。行動の拘束に繋がる行為を行わないように、職員に周知徹底している。	帰宅願望が現われた入居者と一緒に散歩する。片付けで食器を落としたり、スリッパを揃える手伝いでふらつく心配があっても、入居者のやりたい気持ちを大事にして見守る。名前を連呼して焦らせることのないよう留意し、余裕ある声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について内部・外部研修で理解を深めるように努めております。職員間でも相互チェックやシートによる業務の振り返りを行い、虐待が行われないように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者に成年後見制度を利用している方がおり、身近に利用者がいることで職員にも学ぶ機会がありました。利用申し込みに際しては、包括支援センターの協力・助言で、制度の利用に繋がりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居、重要事項の変更等がある場合には、利用者・ご家族様が不安にならないように、疑問点を聞きながら十分な説明を行う様にしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議での意見・要望・苦情の吸い上げや、ホーム玄関先に苦情受付箱を設置して運営に活かす取り組みを行っています。	「非常口の階段を車椅子で避難できるようにしたい」意見が出され、階段をスロープにできる機材を設置する方法で改善した。ホームの外に避難する時、照明が欲しい要望があり、ホームは検討している	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	それぞれ月に一度、ケア会議・スタッフ会議を行い意見を聞くようにしています。それ以外でも管理者等は常に職員の意見に耳を傾け、健全な施設運営に繋がるように心がけております。	入浴用の椅子を、重度の方も入浴ができるよう回転椅子にした。食事の飲み込みや義歯の噛み合わせ等の小さな変化を見つけ、早期に治療し、自立した生活が維持・改善できるよう支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の処遇や勤務環境の整備には、各職員がやりがいを持って働けるように、法人全体で取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は内部・外部の研修や専門資格の習得について積極的に推奨しております。参加可能な研修には勤務調整を行い参加できるように努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	気仙沼介護サービス連絡協議会や宮城県認知症グループホーム協議会に加盟し、合同入職式や災害時の相互協力の充実のための災害時想定訓練に参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人や家族・関わる方々の意見等を参考にして、入居者の不安の軽減に努めています。一つづつ安心を積み上げ、信頼していただけるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族等が施設見学や入居申請に来院された時には、今の生活での困りごとや不安などを傾聴し、提供可能なサービスを提案できるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が生活する上で、何に不安を持ち困っているかを傾聴し見極め、他のサービスも視野に入れ、より良い方法を選択できるように支援を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者様は人生の大先輩」、職員は食事の用意や農作業時には、入居者の知識や能力を参考にさせていただき意識を持って接しております。職員も本人もお互いに支え合って生活をしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の繋がりを大切に考え、ホームでの生活の様子等を手紙や写真をつけてお送りしています。季節の変わり目などには、家族の協力を得て衣類の入れ替え等を行い、本人との繋がりが遠くならないように配慮をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思い出に残る場所・趣味・趣向などを、本人や家族等との会話の中で情報として取り入れ、外出・ドライブの時には立ち寄りしております。	地元の御崎神社の祭りに行き餅拾いをした。よく歌った大漁の歌を歌い、懐かしむ。ドライブで大島に行き、途中、実家の前を通る。日常に散歩する東屋が馴染みの場所になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の用意・片付け、掃除、畑作業等、入居者の人間関係や意向を把握したうえで、役割分担をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方やその家族に相談された時には、他職種と連携を図り、その方に必要なサービスの提供に繋がる様に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見や意向・意思を聞き取り、また表出が難しい方には表情やしぐさなどで判断し、本人の希望に沿えるように努めております。	声掛けや誘いに、笑顔の表情や手を払うような仕草等で判断する。テーブルを叩くのが食事の催促やトイレの合図等だったり、乱暴な口調だが関わりをもってくれるのを待っている人等、個別に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、本人・家族から出来る限りの情報を集められるようにしています。本人がどこで生まれ、どのように暮らしてきたのかを知ることで、本人の人生に寄り添い、質の良いサービスが提供できるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の身体的・精神的な現状把握は日々の生活記録、バイタルチェック表、水分摂取量・排泄チェック表等で行い、また緊急通院等においては、報告書を作成し職員全員が入居者の状態を把握できるようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族とよく話し合い、意向を確認し、グループホームでできる事をケア会議等で話し合い、介護計画に反映するように努めております。	入居者の担当職員がモニタリングし、ケア会議で皆で話し合い、計画作成担当者がまとめる。家族の「趣味を活かして楽しく」や「役割をもった生活」「外出の希望」等の希望に添えるよう、計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や施設サービス計画実施チェック表、職員連絡ノート等を利用し、職員間の情報共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの生活を支えるために、法人内外の他事業所や医療機関・訪問理容等を活用し、個々の様々なニーズに対応できるようサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアサークルの協力の下、畑づくりや園芸、季節行事、お茶会などの交流行事を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者それぞれのかかりつけ医を定期的に通院が難しい方や早急に受診が必要な時には施設職員が同行し、適切な医療を受けられるように支援を行っております。	専門医の受診は、脳外科、神経科等に3名が行っている。受診に家族が付き添えない人もおり、職員が対応する。受診時はバイタルチェック表や排泄状況、食事状況等の記録を持参する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護師の来苑時に、入居者の日々の様子や体調、通院時の医師の所見・処置等を情報共有シートや受診報告書で情報を提供し、助言をいただき、適切な対応がとれるように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には施設での様子をバイタル表や生活記録等の情報提供を行い、退院時には病院からサマリーをいただき、その後の生活に役立てております。また、かかりつけ医から専門の医師に紹介をいただいた時には、診察結果等のかかりつけ医に報告しております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化・終末期の対応については重度化・看取り指針を定め、入居時に本人・家族に説明を行い、入居者本人の状況に変化があった時などに終末期ケアにおける確認事項で家族の意向などを確認しております。	入居者の重度化等に対応するために、痰の吸引等の資格を取得する等ホームでできる限りの支援を行っている。医療的支援に限度があり、長期療養を要する場合は、特養等に移行するよう、家族と相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時に対応できるようにAEDの設置、各種マニュアルの整備、緊急連絡先の掲示等で発生時に備えており、普通救命講習の受講などで実践力を培っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っております。施設での火災避難訓練は消防署の協力を得て、夜間の火災を想定し職員1人での通報・初期消火・避難誘導が出来るように訓練を行っております。また、隣接する施設と協力体制を取り、相互支援に努めております。	深夜の災害時にも、隣接の特養と連携ができています。消防署の立会いもあり「避難誘導が終わったら表札を裏返し、避難済みの表示をする」等のアドバイスがあり、実行している。訓練の反省事項も記録している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア会議等での内部研修などで、否定しない対応等学びケアに活かしております。また、自尊心を損ねないように配慮した声掛けや対応をしています。	呼び名はさん付けであるが、本人も喜び家族の了解で「ババちゃん」と呼んでいる。排泄を失敗した時は「着替えましょうか」「丁度洗濯ですから一緒に洗いましょう」等、周囲に気付かれないよう着替えに誘っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームの理念に基づき入居者の思いに寄り添い、自己決定ができる事で笑顔になれるように支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや意向を優先した支援を心がけております。ホームで生活する上で入居者が何を思い、何を求めているかを常に考え、その人らしい暮らしが出来るように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得て、好みの服装などを用意していただいたり、おこずかい(預り金)で好みのスカーフ等を購入しおしゃれを楽しんでいただけるようにしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者ができる事を把握し、調理の下ごしらえ・調理・盛り付け・片付け(洗い・収納)等をお手伝いいたしております。入居者と職員と一緒に同じ物を食べると会話も弾み、楽しい時間を共有しております。	献立や調理も職員が行う。食材はスーパーから配達してもらう。入居者は魚が好きで、大好物の刺身や寿司は、食べる時間に合わせて届く。ホットプレートで焼きそばやホットケーキを一緒に作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別バイタルチェック表や水分摂取量・排泄チェック表で個々の体調を把握し、適切な栄養や水分がとれるようにしております。また、体調や状態により刻み食・ミキサー食・お粥などを提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る入居者には声掛けを、難しい方には歯磨き支援を行っています。入れ歯使用の方には夜間外していただき、入れ歯を磨き、ポリデントで洗浄しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録等により、入居者それぞれのパターンを把握し、タイミングを見て声掛け誘導を行っております。後始末等もできる限り見守る事により、自立に近づけるように支援をしております。	自立の人は7名であり、夜は大きめのパッドを使用する。車椅子の人も立ち上がる努力をし、トイレで排泄ができる。オムツの人は1人である。夜間、薬服用の人がおり、安全上センサーマットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を処方されている利用者が多く、効果が表れにくい方もいらっしゃいます。出にくい方には水分量を増やしたり、牛乳等を試したりしております。室内外の散歩や朝の掃除など、無理のない程度で、体を動かしていただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り入居者個々のタイミングに合わせ、ゆっくりと入っていただけるようにしています。洗身・洗髪等は出来ないところを手伝い、清潔の保持に努めております。また、入浴を楽しんでいただくために世間話や唄、思い出話などが出来る雰囲気づくりに努めております。	一番風呂や熱め温め、入浴剤等本人の希望に添って、週3～4回の入浴である。脱衣所はパネルヒーターで暖かくしている。浴室内では、昔の歌や漁の手伝いをした等の話が出る。入浴の拒否の強い人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活サイクルを掴み、なるべく生活リズムで睡眠をしていただいております(夜間・午後睡眠)。室温・寝具・衣類等、入居者が安心して眠れるように支援しております。精神的にも不安を抱え込まないように、運動により、適度な疲れでぐっすり眠れるように生活全般に配慮をしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新入居者の服薬状況や、処方薬に変更があった時には通院報告書・職員連絡帳等で周知している。処方箋を薬箱や個人ファイルで保管し、いつでも職員が目的や副作用を理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技などをホームでの生活の中に取り入れ、これまで自宅で行ってきたことを継続していく事で生活に楽しみや気分転換できる機会を持てるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候により、車で馴染の場所をドライブしたり、近所の東屋まで散歩したり、風光明媚な環境を楽しんでおります。また、ボランティア様の協力を得て展示会に出かけたりしております。	暖かい日にはホームの周辺を散歩している。玄関先の広場にテーブルを出して日光浴やお茶飲みをする。桜や紅葉の時期のドライブや馴染みの御崎や巨釜半造の観光地に出掛ける。家族と外泊し温泉に出掛ける人や親戚の法事に行く人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望する日用品や飲料等を、家族から預かったお金(預り金)で必要な時に本人が希望する日用品や飲料・菓子類を購入しております。本人や家族には月ごとに使用明細でお知らせしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族のことを気にしている時は、電話を取り次ぎ、遠くの友達に手紙を出すときには投函をお手伝いしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用する空間には飾りすぎず、出かけた時の写真や他の入居者と一緒に作った季節の作品を展示する程度にとどめております。空調は入居者本位で調整しております。カレンダーは日めくりの物も置き、担当してくれる入居者をお願いしております。	ホールには、燦さん館に展示した作品の張り絵を飾っている。イベントや開通した大島の橋での写真を貼り、入居者の書いた習字もある。紅葉等の折紙で季節感を味わう。入居者は、リビングで体を動かす体操やカラオケを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色をゆっくり眺められるように窓の傍にソファを置いたり、何人かで一緒にコタツに入ってテレビを観ながら会話ができるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着いて過ごせるように、自宅で使用していた時計・写真・収納用具などを家族の協力を得て、居室に配置していただいております。	家族や同級生との写真を飾っている。暖簾を飾ったりタンスや籐の椅子を持ってきている人もいる。好きな編み物をしたり習字を書いたり、毎朝位牌にお茶を上げる等、居心地の良い自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂場等は迷わないように2・3種類の場所を知らせる表札を設置しております。出来る限り自身で移動し、安全かつ自立した生活が送れるような工夫をしております。		